

令和6年度第2回鶴岡市子ども読書活動推進委員会 会議録概要

○日 時 令和7年3月19日(水) 午後3時30分～

○会 場 鶴岡市立図書館 講座室

○次 第

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 委員及び庁内会議委員等自己紹介
4. 推進委員会会長、副会長の選任について
5. 報 告
 - (1) 新図書館整備事業基本構想(案)について
 - (2) 令和6年度実施アンケートについて
6. 協議
 - (1) 第3次鶴岡市子ども読書活動推進計画について
 - ①子ども読書活動推進計画背景及びスケジュールについて
 - ②計画内容について
 - (2) その他
7. その他
8. 閉 会

○出席委員

井上裕子委員、三浦洋介委員、谷江るみ委員、粕谷温子委員、佐藤大吾委員
高田美佳委員、富田喜美子委員

○欠席委員

渡邊敦委員、兼子由香委員

○市側出席職員

教育長 布川敦、子育て推進課長 成沢真紀、社会教育課長 沼沢紀恵
図書館長 五十嵐恭子、子育て推進課主査 進藤夕子、健康課保健師 押野明純
かたばみ保育園主任 松田ルミ子、学校教育課指導主事 守岡太郎
社会教育課社会教育係長 五十嵐芳孝、図書館主事 成沢亜衣

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 1人

○会議内容

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
3. 委員及び庁内会議委員等自己紹介
4. 推進委員会会長、副会長の選任について
5. 報 告
 - (1) 新図書館整備事業基本構想(案)について
 - (2) 令和6年度実施アンケートについて
6. 協議
 - (1) 第3次鶴岡市子ども読書活動推進計画について
 - (2) その他

〈会議概要〉

(委嘱状交付)

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 委員及び庁内会議委員等自己紹介
4. 推進委員会会長、副会長の選任について
立候補、また推薦者なく事務局より提案
会長に三浦洋介委員、副会長に佐藤大吾委員
承認の上、以上の2名に決定。
5. 報告 (事務局より説明)
(1) 新図書館整備事業基本構想(案)について
(2) 令和6年度実施アンケートについて
6. 協議 (事務局より説明)
(1) 第3次鶴岡市子ども読書活動推進計画について
(2) その他

【質疑・意見】

(会長)

小学生から大人までのたくさん意見、こんな図書館ができればいいなという思いが増え、市民全体の新しい図書館に対する夢や願いが大変広がったように思う。

(委員)

図書館ミーティングに全て参加した。新しい図書館ができればこんなふうにしたいなという思いを市民レベルで出し合った中で、期待度がすごくあった。全てを叶えることはできないとは思いますが、基本構想を見るとあの時話し合っていたことが反映されていて、すごく楽しみになった。

(委員)

利用しやすいところということで場所の選定は大変だと思うが、来年度を楽しみにしていきたい。

(委員)

日本語を教えている外国人が、鶴岡の図書館を利用せず近隣の他市の図書館を利用するそうだが、綺麗で雰囲気が良いことが理由と言っていた。鶴岡にも、そんな図書館ができれば、そういった方にも利用してもらえるのでは。

(委員)

アンケートを拝見して、中学生が図書館の場所がわからないということだが、その点については真に受けなくてもいいのかなと思う。小学生や中学生は、まず学校図書館で本を読む習慣を身につけることが大事。

また、図書館は市のWBCで問題提起しているような、若い女性が都会に出てしまうという課題をもとに、ある程度ターゲットを絞って鶴岡全体の方向性を考えていくといいのでは。本好きな人は環境によらず利用すると思われるため、新しく開拓したい人たちが通いたくなるような図書館になるといいのではないかな。

(委員)

普段、学童の小学生の子どもや、読み聞かせボランティアでは乳幼児から幼児に関わっている。今の子どもたちは、子どもだけでは図書館に来ることができない。自由に子どもだけで来

ることができれば一番いいと思うが、まずは子どもが安全に過ごせる環境が図書館には必要。また、若い人が集まりたくなるような、若々しい感覚の空間でもあって欲しいと思う。

（委員）

子どもだけで図書館に来ることができないので、親の興味をどれだけ引き付けるかが大事だと思う。親が連れて来れば子どもは自然にその環境を見て、読むのが普通だと感じるようになるのではないかな。

また、Wi-Fi 環境についてアンケートで意見があるが、特に高校生は Wi-Fi 環境があることが大事なのではないかなと思う。

また、安全面において、防犯カメラの設置も、子どもを持つ親としては設置してあると安心できる。

（委員）

アンケートの説明の中であったような考察が、文字で示されていると、思いや結果を踏まえて鶴岡市の立場からこんなふうにしていきたいというポイントを絞ることができ、アンケートがいてくるのではないかな。

（図書館長）

考察を踏まえて計画の今後に反映させていきたい。

（副会長）

第三次計画の方向性の中で、デジタル社会への対応とあるが、具体的なイメージについて、今の段階で何かあれば教えていただきたい。

（委員）

電子書籍で読む人は、特に都会は持ち歩きにも便利なのでだんだん増えている。

図書館での電子書籍の貸出は、県立図書館で行っているそうだが、いずれ鶴岡市立図書館でも扱っていくのか。

（図書館）

デジタル社会への対応については、県立図書館は電子書籍の貸出を昨年 11 月頃から始めたが、県内ではまだ進んでいない部分ではある。ただ、新館整備を進めている中では、今後の大きな検討課題だと考えている。

デジタルについては、障害のある方への対応というのも大切だと思う。まだイメージの段階ではあるが、デジタルを活用することで、本を手にとる方が増える、そういった幅を広げることを目指して、今後さらに考えていきたいと思う。

（副会長）

電子書籍というと、図書館に来ずとも家で読めばいいというようになってしまっているのではないかと考えていたが、障害がある方等に幅広く対応するためというのと、その通りだと思う。

今日、調べ物はネットや AI を使った方が断然早いけど、ネットで調べるよりも書籍を見ると書いた人のストーリーを知ることができ、同じ説明であっても価値が違う。ネットで情報を得ることと、図書館で情報を得ることについて、うまい住み分けができればいいのではないかな。

（委員）

社会環境の変化への対応ということだが、今の読書というのはどういう形を読書というのかと考えている。現代の子どもは動画を見て楽しんでいるという現状をふまえ、図書館としてどういう対応ができるのか、考えていく必要があるのではないかな。

(副会長)

デジタル世代でも本を読んでいる子どもたちがいるが、その子たちが読むのはどんな分野なのか興味がある。また、図鑑が好きな子どもが多いと思うが、図鑑は何か特別な力があるように思う。編集者の意図など、その価値というのは書籍にあると思っているので、その辺りに力を入れてもらえるといいのではないかな。

(社会教育課長)

デジタル化ということで、押せば読み聞かせを聞くことができるようなものも、これから進むのかなと思いつつ、今の社会教育課では、ブックスタートにて本を通しての親子での触れ合いが大切だということを伝えているので、そういった部分はデジタルにならない方がいいなと思う。しかし、お母さんの忙しいときには、本を読み聞かせできるような、そういうデジタルもあるといいと思うので、場面によって両立が必要だと思う。

(子育て推進課長)

現代の子育て世代は、スマホで情報を取ったり、手続きもスマホで済ませるということに抵抗のない世代。子育て推進課では、子育てアプリを使って若いお父さんお母さんたちに情報発信している。例えば、そういった子育てアプリなどで、おすすめ本の紹介や、読み聞かせの大切さを伝える情報の発信をするなど、うまく活用しながら、本の良さを届けていけたらいいのではないかな。

(委員)

石川県立図書館に行った際、入口に「本を読みたいと思っていないあなたにも絶対に本を読みたくなる」という掲示があった。中に入ると、司書によるおすすめ本がたくさん的小窓に工夫して展示されており、とても読みたくなるような引き込まれる展示だった。子供のゾーンにいくと、座りたくなるような特徴的な椅子が、手を伸ばすとすぐそこに本がある場所に配置されている。また、プロジェクションマッピングが楽しめるコーナーがあり、動きに反応して映像が変わったり、音が出る等のデジタルを楽しむところもあった。また、学習スペースをネット予約できるようにしているなどのデジタル対応もあった。

子どもが外に出て本を読むことができるようになっており、本を楽しむ仕掛けがたくさんあるところが大変魅力的で、鶴岡の図書館にもぜひあるといいのではないかな。

(会長)

アンケートの中に、YAコーナーが充実しているという回答もあり、YAコーナーの本を参考にしながら、中学校の選本を進めているというような意見もあり、様々なところで活きていると思った。

(かたばみ保育園)

保育園の園庭について職員一人一人にどんな園庭だとすてきだと思うか考えてもらったときに、すてきなベンチとそこに木陰があってそこで絵本を読めたらいいという意見があった。また、子供たちは好きな本はすり切れるまで、図鑑もページが外れるほど手にとってみるので、2〜3歳でも恐竜の名前を驚くほど知っていたりする。子ども一人ひとりが興味のあることとか好きなことに見たり触れたり、すぐ大人と一緒に調べることができる環境が大切だと考え、日々保育園で取り組んでいる。また、特に冬になると、数人で先生と一緒に図書館に出かけているが、そういった情報を、保護者の方にもデジタルで配信している。少しでも保護者の方にも、子どもと一緒に図書館や本が身近なものと感じてほしいという気持ちで、普段取り組んでいる。

また、絵本に登場するお菓子を実際に調理員が作って、絵本の読み聞かせと合わせて紹介するなど、本と食育を絡めた取り組みもしている。

(委員)

今年、支援センター図書館を作った。実際運営を始めたら、お子さんが入園していない保護者の方も利用されており、すごく興味を持ってきている。市立図書館との違いとしては、保育園は月刊誌を取っていて、その月刊誌が多数貸出できる。市立図書館において、0～1歳児向けの本は数に限りはあると思うが、各園に子育て支援センターが併設しているところも多くあるので、連携が取れたらいいのではと思う。

(健康課)

健康課では、赤ちゃん訪問の際に『うたえほん』をプレゼントしている。健診でも、1歳6ヶ月児健診の際、歯磨きとか生活習慣を身につける時期になってくるので、歯磨きや言葉の絵本など、成長に伴った絵本をプレゼントできたらいいのではないかな。
また、図書館でも、お母さんの悩みと赤ちゃんの成長に合わせた年齢ごとの絵本を一緒に置いたコーナーがあるといいのではないかな。

(学校教育課)

鶴岡市の教育課題としては、一つ目は自分から学びに向かう力、二つ目が繋がりの中で成長していくということ、三つ目が、将来をイメージしてしっかり歩んでいくことだと思う。1人でできることと、周りと繋がってできることは違うと思うので、その中で図書館を考えたときに、学校教育ではできないことを、味わうことが多いのかなと思う。学校図書館だからこそのことと、市立図書館だからこそのことをすみ分けたり、他自治体のすばらしい図書館も例としてはあると思うが、鶴岡だからこその図書館デザインができればいいのではないかな。
今アンケートをとって、拡散したところからいかに絞っていくか、また鶴岡の教育課題とも関連させた図書館構想というのを考えていければ、すてきな図書館になっていくのかなと思う。

(会長)

この計画について、完成して一度見て終わりではなく、その先も見て活用できるものにしたいという思いがある。幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校に協力を依頼し、取組みについてまとめてもらい、その中からそれぞれ1校ずつ巻末の参考資料に掲載することで、他校の参考になり広がっていく起爆剤になるのではないかな。
それぞれの立場で、鶴岡市全体の子どもの読書推進のために、どんなことができるか考え、出し合えたらいいのではないかな。